

柳橋水車図屏風 重要美術品

りゅうきょうすいしやずびようぶ【A-10447】

江戸時代・17世紀 6曲1双 紙本金地着色

修理 当館保存修復課アソシエイトフェロー：鈴木晴彦、米倉乙世、沖本明子
外部技術者 国宝修理装演師連盟：山本記子、竹上幸宏

右隻 本紙 縦 154.4cm 横 323.1cm
表装 縦 164.3cm 横 335.2cm
左隻 本紙 縦 154.8cm 横 324.3cm
表装 縦 169.0cm 横 336.1cm

川に架かる橋は華やかな金箔で彩られ、水面には水車や竹で編んだ蛇籠が配され、画面の右には月が浮かんでいます。これらモチーフの関係から、この絵が京都の宇治川に架かる宇治橋を描いていることがわかります。宇治は古来から景勝の地として知られていました。

裂や金具は
名わき役
なのね



表装裂



元の裂を参考に、サザンカの花文様を方眼紙に1目ずつ写し取り、図面を起こしました。(文様幅:3.5cm)



図面から文様を織り出した紋紗の裂。

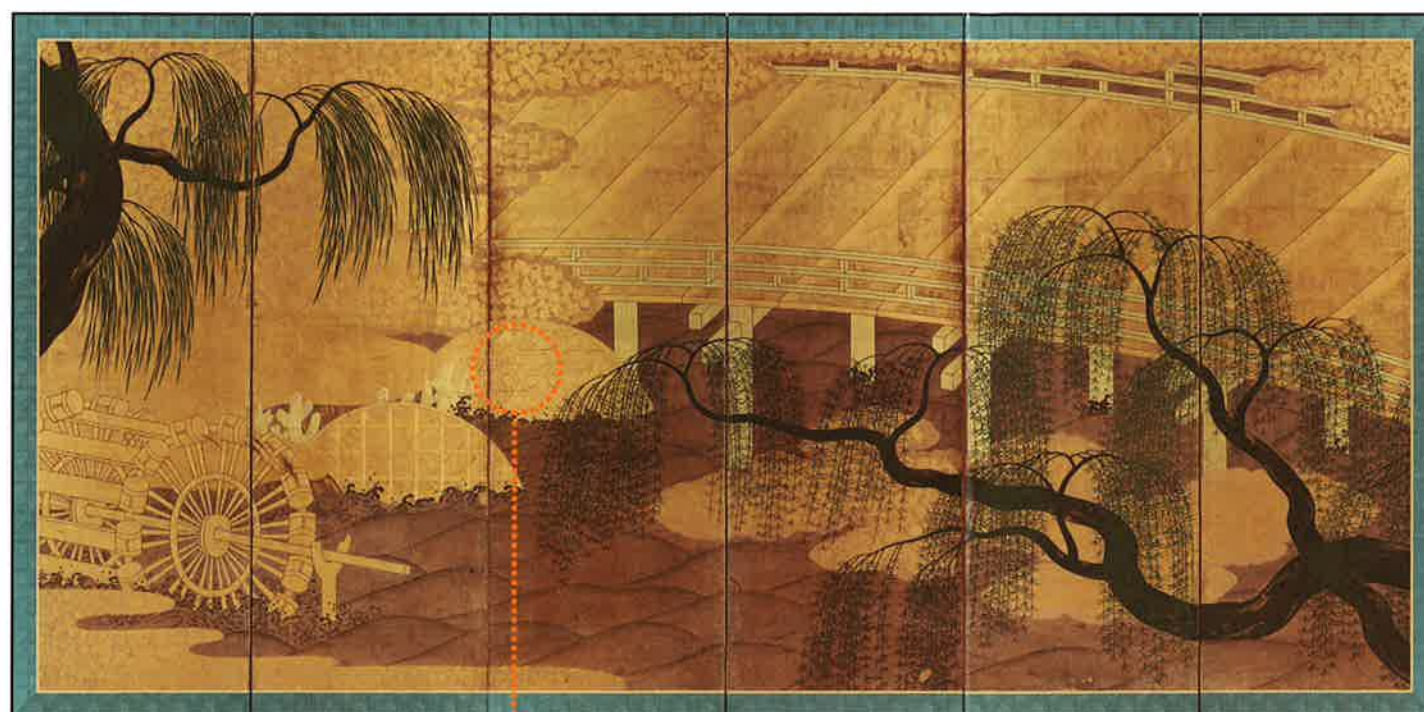
※紋紗：紗の織りと平織で文様を織り出した裂。

解体作業の様子



修理前

画面全体が汚れ、柳の葉の絵具(緑青)もこすれて薄くなったり、なくなったりしていました。水車や籠、橋は胡粉という絵具で盛り上げ、金箔を押してレリーフ状に表現されていますが、絵具にひびが入り浮いている可能性があり、展示や移動の際に取り扱いが難しい状態でした。



修理後

欠失箇所の補填と補彩

修理前



修理後



金色の古い補紙を除去し、本紙と同じ素材の紙で補修し、補彩しました。

剥落止め

緑青に布海苔を混ぜた膠水溶液を差し込んで、絵具が剥落するのを防ぎました。確実に絵具層が安定するまで、この作業を数回くり返しました。



こまかい仕事だはー



絵具が定着し、安定したことにより、画面全体が見やすくなりました。

剥落止めに使った材料



布海苔

フノリ科フノリ属の海藻を天日にさらしたもの。水に入れると多糖類が溶けて糊状になりますが、接着力はそれほど強くありません。



棒膠



板膠

粒膠

動物膠

動物の骨や皮から作る接着剤です。今回の剥落止めには主に牛の粒膠を使用しました。



唐紙と金具 屏風裏面の唐紙を新調しました。



同時代によく見られる唐草文様の金具を復元し、古色付けをしたのち、縁に取り付けました。

隅折金具の図面

